レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 4月 1日

殿

福山北部生コン㈱

配合計画者名　橋本　康平

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、9月21日～12月10日　左記以外の期間については、備考欄に記述（標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ﾎﾟﾘｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市　精密用	A	モルタルバー法	5以下	3.04	－	2.67	7.0±2.0
	②	砕砂	広島県福山市瀬戸町　精密用	A	モルタルバー法	5以下	2.85	－	2.61	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石1505	芳井町梶江(1505)	A	モルタルバー法	15～5	6.35	－	2.70	0.5±0.5
	②	砕石2010	芳井町梶江(2010)	A	モルタルバー法	20～10	6.95	－	2.70	0.5±0.5
	③	砕石4020	芳井町梶江(4020)	A	モルタルバー法	40～20	7.95	－	2.70	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	ﾌﾛｰﾘｯｸ　SV10L	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq %	－
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	上水道水・上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材 －		ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
275	－	－	157	427	418	－	313	313	421	－	1.79	－	－

水セメント比	57 %	水結合材比	－ %	細骨材率	45.2 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　50.0:50.0 粗骨材①:②:③　30.0:30.0:40.0

［夏期修正標準配合］　6月11日～9月20日：標準配合に対し、AE減水剤 +20%、高性能AE減水剤 +15%
［冬期修正標準配合］　12月11日～3月10日：標準配合に対し、AE減水剤 -20%、高性能AE減水剤 -15%

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ
指定事項	W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v ＝ 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3 \cdot V}{100}} = 29.1\ N/mm^2 \qquad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 30.0\ N/mm^2$$

よって　m ＝ 30.0　N/㎟

(3)水セメント比(W/C)　m ＝ -17.5 ＋ 27.3 × C/W

W/C ＝ 27.3 ÷ (30.0 ＋ 17.5) × 100 ＝ 57 % ≦【60%(上限値)】

∴W/C ＝ 57　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W ＝ 157　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C ＝ W ÷ (W/C) × 100 ＝ 157 ÷ 57 × 100 ＝ 275　kg/m³

Cv＝ C ÷ 密度 ＝ 275 ÷ 3.04 ＝ 90　ℓ/m³

(6)空気量(A)　A ＝ 4.5 % × 1000 ＝ 45　ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 ＝ 0.636 m³/m³　実積率 ＝ 61.0 %

Gv ＝ 0.636 × 1000 × 61.0 ÷ 100 ＝ 388　ℓ/m³

G1v ＝ Gv × 30.0 % ＝ 116　ℓ/m³　G1＝ G1v×表乾密度 ＝ 116 × 2.70 ＝ 313　kg/m³

G2v ＝ Gv × 30.0 % ＝ 116　ℓ/m³　G2＝ G2v×表乾密度 ＝ 116 × 2.70 ＝ 313　kg/m³

G3v ＝ Gv × 40.0 % ＝ 156　ℓ/m³　G3＝ G3v×表乾密度 ＝ 156 × 2.70 ＝ 421　kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv ＝ 1000 － (W＋Cv＋Gv＋A) ＝ 1000 － 680 ＝ 320　ℓ/m³

S1v ＝ Sv × 50.0 % ＝ 160　ℓ/m³　S1＝ S1v×表乾密度 ＝ 160 × 2.67 ＝ 427　kg/m³

S2v ＝ Sv × 50.0 % ＝ 160　ℓ/m³　S2＝ S2v×表乾密度 ＝ 160 × 2.61 ＝ 418　kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a ＝ Sv ÷ (Gv＋Sv) × 100 ＝ 45.2　%

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad ＝ C × 添加率 ＝ 275 × 0.65　% ＝ 1.79　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
275	－	－	157	427	418	－	313	313	421	－	1.79	－	－

水セメント比	57 %	細骨材率	45.2 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　50.0:50.0 粗骨材①:②:③　30.0:30.0:40.0

備考